都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
（3年制写真科フォトフィールドワーク専攻(昼間部)）

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
講義	現代写真論	120	○	120	★	120	
実習	スタジオ演習	120	○	120			
実習	写真表現演習Ⅰ	120	○	120			
実習	写真表現演習Ⅱ	120	○	120			
実習	写真撮影基礎演習／ファインプリントⅠ	120	○	120			
実習	ファインプリントⅡ	120	○	120			
実習	画像処理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	300	○	300	★	120	
実習	フォトプレゼンテーション演習Ⅰ	120	○	120	★	120	
講義	基礎ゼミナールA	120	○	120	★	120	
講義	基礎ゼミナールB	120	○	120	★	120	
講義	ゼミナール	360	○	240			
実習	作品制作演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	360					
講義	フィールドワークプランニング	120	○	120			
実習	海外フィールドワーク	300	○	300			
実習	海外フィールドワークスクーリング	120	○	120			
実習	プレゼンテーション演習	60	○	60			
実習	文章表現演習Ⅱ	60	○	60			
実習	エディトリアルワーク	60	○	60			
実習	ディベート演習Ⅰ	60					
実習	ディベート演習Ⅱ	60					
実習	スタジオライティング	120	○	120			
講義	英会話	120	○	120			
講義	メディア論	120	○	120			
講義	社会学	120	○	120			
実習	写真創作演習	120	○	120			
講義	フォローアップ講座	60	○	60			
実習	フィールドワーク	120	○	120			
実習(選択)	フォトクリエイティブ演習	480	○	120			選択科目のうち4科目を選択し受講
実習(選択)	フォトアート演習		○	120			
実習(選択)	ルポルタージュ演習		○	120			
実習(選択)	Web表現演習		○	120			
実習(選択)	ビジュアルデザイン		○	120			
実習(選択)	マガジンメイキング						
実習(選択)	文章表現演習Ⅰ		○	120			
実習(選択)	風景写真演習		○	120			
実習(選択)	デジタル表現演習		○	120			
実習(選択)	ムービー制作演習		○	120			
実習(選択)	写真創作演習Ⅱ		○	120			
実習(選択)	ダークルーム		○	120			
講義(選択)	写真史		○	120			
講義(選択)	写真科学		○	120			
講義(選択)	編集出版論		○	120			
講義(選択)	ドキュメンタリー写真論		○	120			
講義(選択)	美術造形論						
講義(選択)	異文化交流演習(留学生必修)		○	120			
総授業時数		4,200		5,040		600	
卒業に必要な授業時数		3,600					

2023	区分	必修	対象	Ⅰ部1年生

科目名	現代写真論		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	鳥原　学		

授業概要

写真は「撮る」「見る」「撮られる」という三つの要素で成り立っています。より良い写真を「撮る」ために、写真家には写真を「見る」能力と、「撮られる」側のことを考える能力が不可欠。これは、多くの写真を見ることでしか身につきません。それも自分のセンスに頼るだけではなく、ポイントを押さえて考えながら見ること。現代の写真表現は非常に多様であり、使う技術や発表するメディア、なによりテーマの幅が非常に広いからです。この授業ではジャンルごとに現代写真の流れを紹介しながら、資料的な映像の鑑賞などを行い、理解を深めていきます。毎授業後に授業レポートを提出し、理解を深めます。これらを通じて、受講生の写真を「見る」能力と「撮られる」側のことを考える能力を身に着けます。

到達目標

授業構成は前期が基礎として「表現とコミュニケーション」、後期が「多様な表現」をテーマとしています。テキストとして『教養としての写真全史(筑摩選書)』を使用します。

授業計画

	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	オリエンテーション(学校でのワークショップ形式)
	2	演習	カメラの楽しみを知る(三葉堂寫眞機店)
	3	講義	イントロダクション「カメラとこの社会」
	4	講義	ポートレイト「写真の社会的役割」
	5	講義	ポートレイト「理想と現実」
	6	講義	スナップショット「手軽な写真」
	7	講義	スナップショット「”決定的瞬間”以降」
	8	講義	ビジュアルコミュニケーションの誕生「1920~30年代の映像実験」
	9	講義	報道とドキュメント　1「記録と宣伝」
	10	講義	報道とドキュメント　2「印刷メディアとジャーナリズム」
	11	演習	ワークショップ(写真集の見方の指南)
	12	講義	報道とドキュメント　3「フォトジャーナリストの主体化」
	13	講義	広告写真　1「消費社会の原動力」
	14	講義	広告写真　2「産業化と社会へのメッセージ」
	15	講義	広告写真　3「音楽産業の拡大と写真の影響」
後期	1	講義	芸術と写真①「芸術写真の可能性と限界」
	2	講義	芸術と写真②「ストレイトフォト」
	3	演習	写真展観覧
	4	講義	芸術と写真③「アヴァンギャルド」
	5	講義	芸術と写真④「日本の「芸術写真」」
	6	講義	芸術と写真⑤「写真表現と美術館の関係」
	7	講義	芸術と写真⑥「現代写真の性質」
	8	講義	ファッションと写真①「ライフスタイルの芸術化」
	9	講義	ファッションと写真②「多様性の受容」
	10	講義	写真と身体表現①「ヌード、ネイキッド、ポルノ」
	11	講義	写真と身体表現②「ヌードの変化」
	12	講義	.写真と身体表現③「「きれいな裸」をめぐって」
	13	演習	ワークショップ(プリントスタディ)
	14	講義	自然と写真①「写真史のもうひとつの起源」
	15	講義	自然と写真②「生態観察と文化人類学的視点」

評価方法

授業レポートの質と期末のレポート課題。出席回数は厳守。　注意：課題に不正（webからのコピペ、他人が書く）が発覚した場合、出席回数の如何にかかわらず落第とします。

テキスト 参考書

『教養としての写真全史(筑摩選書)』。各自購入のこと。

講義の特徴 教員紹介

視聴覚教材を使用しながら、様々な作家を紹介する講義形式を基本とするが、学生との対話なども取り入れる。また授業ごとに学生はレポートを記入・提出する。担当教員は1993年から写真弘社にある写真ギャラリーアート・グラフ運営担当し、様々な展覧会を手掛けた。1998年からフリーになり、現在は写真研究者、写真評論家として様々な雑誌などに寄稿し、また写真関連の書籍も多数出版している。写真表現や写真家に関する豊富な知識に基づいて、写真家やカメラマンとして必要な写真をみる能力を身につけるための授業を展開する。

2023	区分	必修	対象	Ⅰ部3年制3年

科目名	画像処理Ⅱ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	羽立　孝		
授業概要 到達目標	”イメージ”はコミュニケーションの一つです。”イメージ”を具現化し他者を介し昇華していく上で、デジタル写真をレタッチしていくことはとても重要なことになっています。 個々の目的のイメージにより、その必要十分性は変化していきますがそれらの技術を幅広く習得し、またイメージ作成にあたり必要な技術を取捨選択し、最善の結果を得られるイメージづくりができることを目標とします。 それぞれの今後の写真への取り組みへの明確な目標、また課題を持ち、授業に望んでください。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	概要	ペンタブレット・Bridge
	2	LightRoom	Lightroomの使い方
	3	CaptureOne	CaptureOneの使い方(テザー撮影)
	4	Photoshop	レイターの仕組み(修復ブラシ・コピースタンプ)
	5	選択範囲	選択範囲およびマスクの概要
	6	パス①	パスの概要
	7	パス②	パスの選択、使い方
	8	選択範囲	色
	9	選択範囲	輝度
	10	ブラシ	ブラシ概要
	11	トーンカーブ	覆い焼き・焼き込み
	12	トーンカーブ	濃度
	13	トーンカーブ	カラー
	14	テスト	前期内容
	15	回答	
後期	1	CaptureOne	CaptureOne現像
	2	スマートオブジェクト	概要
	3	スマートオブジェクト	変形
	4	スマートオブジェクト	フィルター
	5	スマートオブジェクト	応用
	6	描画モード	概要・スクリーン
	7	描画モード	乗算
	8	描画モード	乗算
	9	描画モード	オーバーレイ
	10	描画モード	オーバーレイ
	11	描画モード	カラー
	12	背景	背景処理
	13	レイアウト作成	Photoshop・Illustrator
	14	テスト	後期内容
	15	回答	

評価方法	出席および授業態度
テキスト 参考書	世界一わかりやすいPhotoshop 操作とデザインの教科書
講義の特徴 教員紹介	パソコン室での実習授業を基本とする。担当教員はフリーランスのレタッチャーとしてまたフォトグラファーとして、活躍しています。数々のフォトグラファーの撮影したファッション写真や広告写真をレタッチ（画像処理）し、最終的な写真に仕上げています。 これまでつちかってきた高度なレタッチ技術や現場での経験を活かし、レタッチ技術の応用を学ぶ授業を展開しています。

2023	区分	必修	対象	Ⅰ部3年制1年

科目名	フォトプレゼンテーション演習Ⅰ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	フジモリ メグミ		
授業概要 到達目標	この授業では、フォトプレゼンテーション（写真の編集や展示などの作品を見せる方法等）についての、基礎的な知識を身につけることを目指します。 前期はたくさんの展示会を見学し、展示の方法を学びます。展示方法の違いによって、作品の印象が変わっていくことを理解できるようにしましょう。 後期は作品作り・ポートフォリオ制作をあわせて行なっていきます。８階ウォールギャラリーでの展示などを通して、意図を正確に伝えることが出来る効果的なプレゼンテーションを学びましょう。 通年のカリキュラムを通じ、様々な展示方法、プレゼンテーション方法を習得し、作品の目的に応じた効果的な展示を行える技術を身につけることが、この授業の到達目標です。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	ガイダンス/授業説明/自己紹介
	2	実習制作	フォトスクラップの制作　持ち物→ノート・雑誌や新聞（スクラップに使用できそうな素材）・のり・はさみ/カッター
	3	課題発表	フォトスクラップ発表・展示準備　各自5分程度の発表を想定して準備してきてください
	4	展示作業	フォトスクラップの展示作業
	5	実習制作	様々な展示方法を学ぶ　対象の展示会を見学①「TOPコレクション」
	6	↓	レクチャー・マットカッターの使い方
	7	↓	抜き寸の計算方法・額装の基本的な知識
	8	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ②「樋上秦幸展」
	9	↓	それぞれのレポートの発表／ディスカッション
	10	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ③「ワニがまわる　タムラサトル」
	11	↓	それぞれのレポートの発表／ディスカッション
	12	実習	額装した作品を使って釘打ちの実習
	13	↓	↓
	14	実習制作	レクチャー・紙の種類によって見え方の変わるプリント・比較
	15	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ④「アレック・ソス　集められた落ち葉」
後期	1	実習	それぞれのレポートの発表／ディスカッション
	2	実習	水張の方法
	3	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ⑤「マンレイと女性たち」
	4	↓	それぞれのレポートの発表／ディスカッション
	5	実習制作	作品のPDF化について　WEBで作品を展示する
	6	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ⑥
	7	↓	それぞれのレポートの発表／ディスカッション
	8	講評	″写真表現演習Ⅱ″で制作した作品をもとに展示プランなどの考察
	9	↓	展示プランの作成・発表
	10	↓	展示模型の作成
	11	↓	展示模型の作成・発表・投票
	12	実習制作	″写真表現演習Ⅱ″で制作した作品をweb上で発表する
	13	↓	↓
	14	↓	選考会・まとめ
	15	準備	展示会準備

評価方法	出席率/授業態度/写真への愛情や熱意をもとに、総合的に評価します。
テキスト 参考書	必要な物は事前に連絡します。忘れ物はしないようにしましょう
講義の特徴 教員紹介	担当教員は写真家として、数多くの作品を発表しており、写真集の発刊や写真展の開催をコンスタントに続けている。また2020年度にはエプサイト(EPSON)の年度賞を受賞。同じく自主運営ギャラリー「komaギャラリー」を立上げ、経営している。これらの経験をもとに、撮影してきた作品の講評と、実際に提出するレポートの評価、手を動かして作業をしながら写真を人に見せる工程を身に着けることが中心の授業を展開する。

2023	区分	必修	対象	Ⅰ部3年制2年 FWゼミ

科目名	FW基礎ゼミA		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	鈴木　邦弘		
授業概要 到達目標	このゼミは、3年前期半年間の海外フィールドワークでの撮影取材に直結する授業です。前期前半は、撮影対象からテーマを見つけ出すことを学びます。指定された場所(動物園)から自分なりのテーマを見つけ出し、それに沿って撮影し、撮影した写真群のシークエンス、構成を考えてまとめてもらいます。前期後半から後期にかけては、各自の海外フィールドワークのテーマを国内に置き換えて作品制作を行います（置き換えが無理な場合は国内撮影のテーマを考えて下さい）。授業内で講評を中心に行い、作品をまとめてゆきます。最終的には、一年間で、ひとつのテーマにそった30枚以上の写真でまとめた作品を制作することが到達目標です。前期は15枚以上(30枚以上の作品制作の途中経過を見る)、後期は30枚以上(前期の写真を含めて)のひとつのテーマにそった写真でまとめた作品を提出してもらいます。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業説明	テーマ発表(3年時の海外フィールドワークのテーマとそれにそった国内でのテーマ)、検討。
	2	企画書制作	撮影対象、テーマなどの検討、動物園の何をテーマとして作品化するのか
	3	撮影実習	ロケハンを兼ねて
	4	企画書見直し	前回撮影した写真、経験を踏まえて、撮影対象、テーマの明確化
	5	撮影実習	上野動物園で撮影
	6	撮影実習	上野動物園で撮影
	7	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント
	8	講義	写真とは
	9	講義	写真とは
	10	講評	海外フィールドワークを踏まえた国内のテーマ作品、完成した作品を見るのではなく、作品制作の途中経過を確認することが目的
	11	講評	テーマにそった作品の検討
	12	講評	テーマにそった作品の検討
	13	講評	テーマにそった作品の検討
	14	講評	テーマにそった作品の検討
	15	作品審査	15枚以上、A4以上にプリントした作品(30以上の作品制作の途中経過を見る)を提出。採点。
後期	1	講評	テーマにそった作品の検討
	2	講評	テーマにそった作品の検討
	3	講評	テーマにそった作品の検討
	4	講評	テーマにそった作品の検討
	5	講評	テーマにそった作品の検討
	6	講評	テーマにそった作品の検討
	7	講評	テーマにそった作品の検討
	8	講評	テーマにそった作品の検討
	9	講評	テーマにそった作品の検討
	10	講評	テーマにそった作品の検討
	11	講評	テーマにそった作品の検討
	12	講評	テーマにそった作品の検討
	13	講評	テーマにそった作品の検討
	14	講評	テーマにそった作品の検討
	15	課題審査	30枚以上(前期の写真も含め)、A4以上にプリントした作品を提出。採点。

評価方法	提出した作品の点数を成績とします。
テキスト 参考書	取材撮影地は変更の可能性があります。
講義の特徴 教員紹介	撮影してきた作品を講評することを基本とする。担当教員はフリーランスカメラマン、写真家として、数々のドキュメンタリーや社会的な問題を対象としたルポルタージュを発表している。その優れた作品により、伊奈信夫賞を受賞している。いままでの写真家としての豊富な経験や知識に基づき、写真家育成に向けた授業を展開している。

2023	区分	必修	対象	Ⅰ部3年制2年 FWゼミ

科目名	FW基礎ゼミB		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	飯塚　明夫		
授業概要 到達目標	前期と後期で授業内容が大きく異なります。まず前期授業は、有機農法や地域のリーダーとしての知識と技術、心構えなどを学ぶために、アジア・アフリカなどから来ている研修生の姿と、彼らを受け入れているアジア学院の様子を、写真と文章でルポルタージュします。授業目標は以下の3つです。 ①異文化の人々とのコミュニケーション力をつける。 ②取材力をつける(取材テーマ,取材対象の理解,撮影目的,インタビュー内容,取材ノートなど) ③写真の編集力をつける(セレクト、構成)。具体的には、２つの課題作品に取り組みます。 課題A：「マイドリーム」（個人制作）。 課題B：「アジア学院の一日」（個人制作+共同写真展示）。 後期授業では前期で学んだルポルタージュとマレーシアの取材経験を活かし、アジア取材に向けて更にテーマを掘り下げ、写真的思考力、表現力の向上をはかります。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	・授業内容の説明、（アジア学院、取材撮影、課題）
	2	撮影取材プラン①	・アジア学院とは　・合宿のスケジュール
	3	撮影取材プラン②	・課題の取材撮影プラン①、・班長
	4	撮影取材プラン③	・課題の取材撮影プラン②、
	5	アジア学院合宿	・農作業＆取材（撮影、インタビューなど）
	6	取材データの整理セレクト①	・写真整理①（写真・２Lサイズ）、文章整理①
	7	取材データの整理セレクト②	・写真整理②（写真・２Lサイズ）、文章整理②
	8	取材データの整理セレクト③	・写真整理③（写真・２Lサイズ）、文章整理③
	9	個人課題の中間発表（プリントはA4サイズ）	・「マイドリーム」（ポートレイト３枚、文章400字）・「アジア学院の一日」（写真１０枚、文章600字）
	10	展示写真のセレクトと構成①	・「マイドリーム」（展示用ポートレイト写真1枚、文章400字）・「アジア学院の一日」（展示用写真約10枚、）
	11	展示写真のセレクトと構成②	・プリント、挨拶文、写真キャプションなどを作成
	12	展示準備作業①、プリントチェックなど	・プリントサイズはA4～A3、（全写真の色味、明るさ、コントラストなどを揃える）。ハリパネのカット。
	13	展示準備作業②	・パネル張り
	14	展示作業	・釘打ち
	15	個人発表（評価）、まとめ	・課題A：「マイドリーム」、ポートレート３枚（A4）、文章400字・課題B：「アジア学院の一日」、写真１０枚（A4）、文章600字
後期	1	オリエンテーション	前期作品持参、今後の撮影概要検討
	2	作品合評①	新作写真（２Lサイズ可）
	3	作品合評②	新作写真（２Lサイズ可）
	4	作品合評③	新作写真（２Lサイズ可）
	5	作品合評④	新作写真（２Lサイズ可）
	6	写真集を読む①	写真集を1冊選び、制作の意図を、文化的背景や時代背景を含めて読み解き、一人20分ほどで発表。
	7	作品合評⑤	新作写真（２Lサイズ可）
	8	作品合評⑥	新作写真（２Lサイズ可）
	9	中間発表	10枚の組み写真（A-4）、タイトル、撮影意図（約300字）
	10	作品合評⑦	新作写真（２Lサイズ可）
	11	作品合評⑧	新作写真（２Lサイズ可）
	12	作品合評⑨	新作写真（２Lサイズ可）
	13	作品合評⑩	新作写真（２Lサイズ可）
	14	ゼミ内審査①	25枚（A-4、前期作品も10枚まで可）、タイトル、撮影趣旨（約300字）
	15	ゼミ内審査② まとめ	25枚（A-4、前期作品も10枚まで可）、タイトル、撮影趣旨（約300字）

評価方法	提出した作品の点数を成績とします。
テキスト 参考書	取材撮影地は変更の可能性があります。
講義の特徴 教員紹介	撮影してきた作品の講評や提出された課題内容の検討することを基本とする。担当教員は青年海外協力隊としてザンビアにて写真講師を経験、その後フリーランスカメラマン、写真家として、アフリカを対象とした数々の作品を発表している。いままでの写真家としての豊富な経験や知識に基づき、写真家育成に向けた授業を展開している。